

<ヤシの木学級>生活単元学習「生命・自然」

① 授業改善に向けた取組

週1回、校外歩行を実施し、公共施設の利用の仕方や身近な自然の学習をしている。

身近な自然については、小笠原水産センターや小笠原海洋センターを利用し、本学級児童の課題である、「身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それを表現すること」の指導にあたっている。

小笠原水産センターでのアカハタ(通称:アカバ)の歯磨き体験や、小笠原海洋センターのアオミガメ等への餌やり体験などを通して、生き物に対する扱いや愛護心を学習した。

② 教科等横断的な視点による組織的な取組

音楽科では、本校で行事等で歌い継がれている「アオウミガメの旅」を合唱した。また。図画工作科では、海の生物を題材にした「オタクギョタク」でカニを制作している。身近にいる生き物全般に関連付けた。

③ 外部人材や地域資源等の活用

○小笠原水産センター ○小笠原海洋センター

<実践の成果と課題>

成果	課題
<p>従来の指導計画の中に無理なく位置づけられるようになったため、徒歩圏内にある諸施設を継続的に活用でき、生き物と存分に触れ合うことができた。</p> <p>また、生き物飼育等の体験したことと、音楽科や図画工作科などの学習内容を関連付けることができた。</p>	<p>身近にいる生き物を大切に扱えるようになることを目標に、指導者が変わっても継続的に指導していけるように、指導計画の見直しや改訂が必要である。</p> <p>また、チャボやグッピーだけではなく、多種多様な生き物との触れ合えるようにすることが課題である。</p>



V 地域での活動や通年での実践

ここでは郷土小笠原への理解を深めるために行っている通年の活動を紹介します。



5月・12月

【地域清掃】

自分たちの住んでいる地域をきれいにしようとする気持ちを養うことや、郷土を愛する気持ちを育てることをねらいとした活動です。

6月・9月

【ノロ落とし】

(青灯台周辺の護岸清掃)

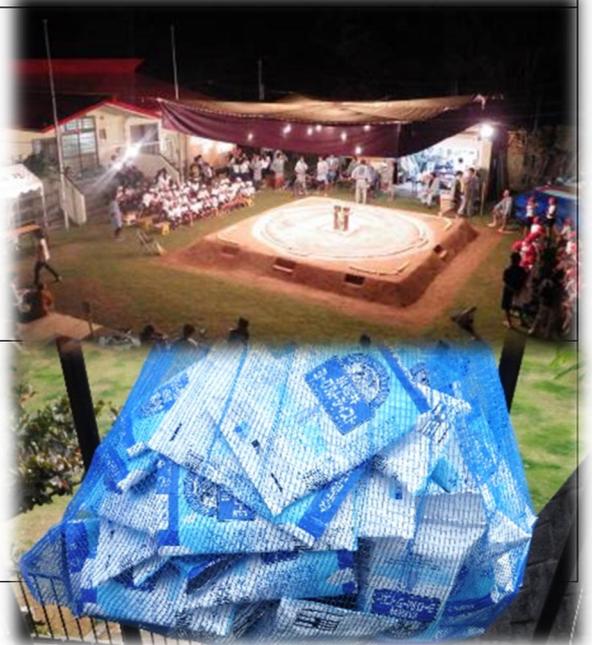
隣接する小笠原中学校と連携して行う護岸清掃活動です。夏の時期はプールでの水泳とは別に、青灯台周辺を遠泳の授業場所として使用しています。



その他

【地域行事への参加】

子供相撲大会、神輿、ロードレース大会、周年式典、返還祭、その他地域行事への積極的な関わり。
(教職員もスタッフとして運営に参加している。)



通年

【芝生整備】(月2回)

【牛乳・ヨーグルトパックリサイクル】(毎日)

→年間3万個以上の実績



VI 環境教育研修会

ここでは小笠原小学校の実施している環境教育についてご理解していただくため実施した島民向け研修会と、本校教職員のスキルアップをねらった校内研修を紹介する。

環境教育 研修会 I

麻布大学の小玉敏也教授(環境・生命科学部)に御指導をいただき、ESDの考え方を生かした総合的な学習の時間の単元開発について、講師と教職員での情報交換・共有化を図った。

また、学習指導要領改訂に伴うESDの方向性や概要、ユネスコスクールの小笠原小学校に寄せられる期待・役割などへの理解を深めた。

■ 10月20日(土) 島民向けの講演会

『環境教育セミナー ～小学校と連携して行なう環境養育とは～』という演題のもと、島内の環境教育に携わる方々をはじめとして、一般の方々向けに小学校における環境教育の実践について講演会を実施した。

<テーマ>

1. 小学校での環境教育とは
2. 各地の環境教育の取組
3. 小笠原村の環境教育に寄せる期待



■ 10月22日(月) 校内研修

『ESDの考え方を生かした総合的な学習の単元開発』と題した校内研修を実施した。

<テーマ>

1. 2030年代の学校教育とSDGs
2. ESDと総合的な学習の時間
3. ESDの考え方を生かした総合的な学習の時間の単元開発
4. ESDにおける総合的な学習と学力形成



校内研修後、教員からはSDGsの17の目標への理解の深まりや、小玉教授の実践を知ることでの授業への意欲の高まりの声が聞かれた。



平成30年度東京都持続可能な社会づくりに向けた教育推進校指定校事業

環境教育セミナー

～小学校と連携して行う環境教育とは～

10月20日(土)

▶会場 小笠原世界遺産センター 多目的室

▶時間 開場 18:30 開始 19:00
終了 20:30

▶参加料 無料

▶申し込み 会場に直接お越しください。

<内容>

- 小学校での環境教育とは
- 全国での環境教育の取組み
- 小笠原村での環境教育に寄せる期待



講師 小玉敏也 教授(麻布大学 生命・環境科学部)

麻布大学で学部を卒業後、埼玉県公立小学校教諭を20年間務め、生涯学習と総合的な学習を中心とした授業実践に取り組み、2002年より、麻布大学大学院英文化コミュニケーション研究科博士前期課程において、環境教育及び持続可能な開発のための教育(ESD)を専攻、博士号を取得。
2012年より現職。現在、(一社)日本環境教育学会理事を務める。学校における環境教育/ESDに関する情報誌、持続可能な地域づくりにおけるESDの教育実践の普及に努めている。
問い合わせ 小笠原小学校 主幹教諭 森本智 TEL:2-2012



VI 環境教育研修会

ここでは本校教職員のスキルアップをねらった校内研修と、小笠原小学校の実施している環境教育についてご理解していただくため実施した島民向け研修会を紹介する。

環境教育 研修会 II

公益財団法人キープ協会の増田直広氏にご指導をいただき、小笠原小学校のビオトープや校庭を使った自然体験活動を通して、小笠原小学校での環境教育について、講師と教職員での情報交換・共有化を図った。

また、自然体験活動の実践例や自然体験活動とSDGs・ESDとの関連を紹介して頂き、世界自然遺産小笠原での環境教育に寄せられる期待・役割などへの理解を深めた。

■12月18日(火) 校内研修

小笠原小学校のビオトープや校庭を使った自然体験活動を通して、小笠原小学校での環境教育について、講師と教職員での情報交換・共有化を図った。

<テーマ>

1. 校内でできる自然体験活動～葉っぱで遊ぼう～
2. アクティビティの作り方・プログラム開発
3. 自然体験活動における「ふりかえり」



■12月18日(火) 島民向けの講演会

『環境教育セミナー ～自然体験の視点から～』という演題のもと、島内の環境教育に携わる方々をはじめとして、一般の方々向けに自然体験活動団体や企業等における環境の実践について講演会を実施した。

<テーマ>

1. 自然体験活動の実践例(CSRとして)
2. 自然体験活動とSDGs・ESDの関連

平成30年度東京圏持続可能な社会づくりに向けた教育推進校指定校事業

環境教育セミナー

～自然体験活動の視点から～

12月18日(火)

▶会場 小笠原世界遺産センター 多目的室
▶時間 開場 18:30 開始 19:00
終了 20:30
▶参加料 **無料**
▶申し込み 会場に直接お越しください。
▶主催 小笠原小学校

<内容>

- 自然体験活動の実践例(CSRとして)
- 自然体験活動とSDGs・ESDの関連
- 情報交換・質疑応答

講師 **増田直広氏**

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部 主任研究員
山梨県立ハッコウ自然館 主任研究員
山梨県環境教育推進センター 主任研究員

東京文化大学 非常勤講師 / 日本大学 非常勤講師 / 立教大学 ESG 研究部 非常勤研究員 / 日本環境教育学会 理事 / NPO 法人 自然体験活動推進協会 代表理事 / 環境 / 日本インターナショナル 総合企画部長 / 公益財団法人やまなし環境財団 理事 / JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員 他

問い合わせ 小笠原小学校 広報課 清水 TEL: 2012



VII. 成果と課題

成果	<p>①手だての3つ(授業改善に向けた取組・教科等横断的な視点による組織的な取組・外部人材や地域資源等の活用)に意図的・計画的に学校一丸となって取り組んだことで、地域との連携が更に深まった。専門性が高い地域や外部との連携が深まったことで、児童の意欲の高まり、学習の質の高さが見られた。</p>	
	<p>②単元指導計画を外部と情報共有し、ゴール設定を明確化した。また、これまでの指導計画を見直し、改善を図れたことで、活動の拡がりももてた。</p>	
	<p>③児童の実態アンケートからは、「他の人と協力して、持続可能な社会をつくっていききたい」という思いの高まりが見られた。</p> <p>アンケート調査の概要 <実施時期> 第1回：平成30年2月・第2回：平成30年5月実施 <実施対象> 5年生・6年生 ※第2回は4年生も実施したが、第1回を実施していないため掲載はしていない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 【質問】他の人と協力して、持続可能な社会をつくっていききたい。 </div> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回(平成30年2月)</td> <td style="width: 50%;">第2回(平成30年5月)</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">現5年生児童</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>■ そう思う (50%) ■ どちらかというそう思う (29%) ■ どちらかというそう思わない (18%) ■ そう思わない (3%)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>■ そう思う (35%) ■ どちらかというそう思う (53%) ■ どちらかというそう思わない (12%) ■ そう思わない (0%)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">最上位層の数値の減少が見られたものの、上位層全体では数値が上昇した。(約79%→約88%) また、下位層の数値の減少が見られた。(約21%→約12%)(最下位層は0%になった)</p> <p style="text-align: center;">現6年生児童</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>■ そう思う (38%) ■ どちらかというそう思う (56%) ■ どちらかというそう思わない (6%) ■ そう思わない (0%)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>■ そう思う (64%) ■ どちらかというそう思う (32%) ■ どちらかというそう思わない (4%) ■ そう思わない (0%)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">上位層の数値の上昇が見られた。特に最上位層の上昇が顕著であった。(約38%→約64%) また、下位層の数値の減少も見られた。(最下位層の0%は変わらず)</p>	第1回(平成30年2月)
第1回(平成30年2月)	第2回(平成30年5月)	
課題	<p>①評価方法・内容の改善。指導と評価を連動して授業が行えるよう、改善が必要である。数少ない研修の機会を活用して、授業力向上に全教職員で取り組んでいく。</p>	
	<p>②指導計画の更なる改善。今回作成した指導計画をもとに、年度ごとに改善していき、異動者の多い小笠原小学校スタイルを確立していく必要がある。外部の力を効果的に活用する指導計画が全学年・全単元で必要と考える。今後は生活科や理科・社会科といった世界自然遺産と関わりの深い教科・領域との連携を視野に入れていくことで、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりができるようにする。</p>	
	<p>③実践資金・指導者の確保。小笠原小学校は単学級であり、異動がおおよそ3年ごとに行われる現状がある。地域人材を育成する良い実践に関しては、継続活動できるよう実践資金の確保や指導者の確保・引継ぎが必要と考える。</p>	

VIII 最後に

本校にとって生活科や総合的な学習の時間で学ぶ「世界自然遺産小笠原諸島父島」とは、郷土小笠原への誇りと愛着を育むことそのものである。その郷土は世界自然遺産であり、日本に返還されてから50年の節目を迎えた小笠原村、そして、豊かな自然の持続可能性を担う児童の育成には、大きな期待とともに重い責任がある。